

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。句読点・記号はすべて一字とします。(1)～(11)は形式段落の番号です。

①たとえば渋谷駅前の巨大なスクランブルコウサ点。そこは一度に大量の人がわたること
で世界的に有名です。そこをわたろうとしているあなたは、目の前にやってくる大量の人々
をどのように理解しているでしょうか。すてきなファッションをした人や奇抜なかつこう
をした人には思わず目がとまるでしょう。また知り合いを見かければ、声をかけたりする
でしょう。(1)大半の人々は「コウサ点をわたる」見知らぬ他者です。だからこそ、
目の前からいそがしそうにやってくる人々を過剰に見つめたりせず、声をかけたりなどし
ないで、ぶつからないように注意をはらいながら、支障なく、あなたは**大勢の他者のムレ**
を上手にすりぬけていくのではないのでしょうか。

②なにをあたりまえで、つまらないことを話しているのかと思われるかもしれません。で
も、なぜ、どのようにして**私たちが、「コウサ点を支障なくわたること」**ができるのかを
詳細にふりかえることは、日常生活世界をふだんどのように**私たちが認識し、**生きている
のかを考える重要な事例と言えるのです。

③私は、毎日大学に向かう電車の中で、常におどろいています。通勤通学ラッシュの中、
大半の人が黙々とスマホ(スマートフォン)画面をながめ、指をいそがしそうにすべらせ
ています。私は、この光景を異様に感じ、**見事な「画一さ」にいつもおどろいています。**
もちろんスマホがだめだなどと言っているわけではありません。これもまた、私たちがふだ
ん「あたりまえ」に電車に乗るための重要な**実践知**と言えるのです。ただせまい車内で、
自分の立ち位置を決めた瞬間、**周囲の人への関心をいっせいに遮断して、**スマホバリ
アーで守られた世界へ人々が没入していく姿は私にとって、いつもおどろきなのです。

④かつては、新聞を四つ折り、八つ折りにして顔を近づけ無心に読む姿やシユウカンマン
ガ雑誌を丸めて読む姿が中心でした。新聞や雑誌を読む姿とスマホに没入する姿は同じな
のでしょうか。(2)まったく異質な日常を生きる私たちの姿ができあがっているの
でしょうか。同じように見える混んだ車内の光景ですが、私はこの二つはかなり意味が異
なっていると考えます。

⑤新聞や雑誌は、確かに私たちはそれを読みたいから読むのですが、見方を変えれば、こ
れらは、身体がふれあうぐらい混んだせまい車内で、おたがいが儀礼的にきよりをとり、
特別なキヨウミや関心がないことを示し、相手に対してきよりを保っていることを示す重
要な道具と言えます。新聞や雑誌を読んでも、周囲の音やとなりの人の姿勢や動きな
ど細かいじょうきようはわかるでしょう。その意味でこうした道具は、それに目を落として
いるとしても、常に周囲の他者の気配は感じ取れるし、私たちは常に周囲に気を配って
いるとも言えるのです。つまり、新聞や雑誌は、周囲に「バリアー」をハル道具ではなく、
周囲の他者とつながるための道具なのです。

⑥他方、私たちはスマホを通して、混んだ車内でもそこにいない他者と交信したりゲーム
を楽しんでいます。いわばスマホは、「今、ここ」で全く異質なリアリティへ瞬時に跳躍
できるおどろきのメディアなのです。さらにスマホは、新聞や雑誌に比べ、小型軽量であ
り、周囲にめいわくもかけずに私たちは「混んだ車内」でソウサができます。イヤホンや
ヘッドホンをし、周囲からの音をささげり、視線をスマホの画面に集中させるとき、**私た
ちの心や関心は「今、ここ」にはないのです。**

⑦混んだ車内の二つの光景。一つは、新聞や雑誌を読みながらも、常に周囲の他者に対し
て儀礼的に無関心を示し、身体が密着しているとしても、そこに安心なきやがあること
を示しあう秩序が「今、ここ」で作られ維持されている空間です。そして今一つは、それ
ぞれがスマホに没入することで「今、ここ」に居ながらも、個別のリアリティの跳躍を楽
しんでいる空間です。ただし、そこは、まさに周囲の他者への関心を喪失し、安心なきよ
りを保つための儀礼をびさいに実践することさえおこなっている人々の身体が満ちている
空間なのです。

⑧通勤通学での混んだ車内という、思いつき「あたりまえ」で日常的光景を詳細に読み
解いてみました。そこからは、他者とつながるうえで、ふりかえって考えるべきキヨウミ
深い問題を私たちが生きていることがわかります。

⑨私たちが何気なく見ている日常的光景。数え上げたら□□がないのですが、日常生活世
界になんらかの意味をあたえている多様な「あたりまえ」の場面こそ、私たちが日常生活
世界を詳細にふりかえってとらえ直すきっかけにあふれているのです。

⑩そしてきっかけに気づくためには、ただ「あたりまえ」を漫然と認め、「あたりまえ」
がもつ心地よい、なまあたたかい空気にただひたっているのを、いったんやめる必要があ
るでしょう。言い方を変えれば、目の前の場面や光景を理解するためにほは無意識のうち
に使っている「処方せん」としての知識、いわば**常識的知識**をいったんカッコに入れ、こ
の知識をどのように自分が使っているのか、またこの知識を使って場面や光景を理解して
いく営み自体、はたして適切で、気持ちよいものだろうか、などを立ち止まって考
えてみる必要があるのです。そうした気づきや営みこそ、**日常生活世界を生きて在る私た**

ちの姿を社会的に読み解くためのはじめの一步なのです。

⑪「あたりまえ」におどろき、そこに何が息づいているのかを「見つめ」、その何かが本
当に私たちが他者とともに気持ちよく生きていくうえで必要なのかを「疑い」、さらにそ
れを「変えていける」とすれば、どのように自分の日常を変えていけばいいのかを考える
営みこそ、まさに自分自身の暮らしや人生を社会的にふりかえって考えるキホンといえ
るのです。

(好井裕明「今、ここ」から考える社会学」による)

(注) ※1 実践知……………実際にものごとを行うときに、適切な判断をくだすための知識。

※2 リアリティ……………現実・実在。

※3 メディア……………情報を伝達する媒体・手段・技術。

※4 漫然と……………なんとなく。

※5 処方せん……………患者にあたえる薬について医師が指示した書類。

問一——線a「」について、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。おくりがなが必要なものは、ひらがなで正しく送りなさい。

問二——線①「奇抜な」⑤「無心に」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

①「奇抜な」

ア 季節に合わない

イ みんなの注目をあびる

ウ その人にふさわしくない

エ ふつうとはがっている

⑤「無心に」

ア 内容を味わうことなく

イ ほんやりと何も考えずに

ウ 一つのことだけに集中して

エ 思いやりの心を持たないで

問三 (1) (2)にあてはまる最も適当なことを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア および

イ しかし

ウ すると

エ つまり

オ それとも

問四——線②「なぜ、どのようにして私たちが、「コウサ点を支障なくわたること」ができるのか」とありますが、その理由を説明した次の文の□□に入れるのに最も適当なことを本文中から六字でぬき出して書きなさい。

私たちは、日常生活世界において、コウサ点をわたる人を□□としてとらえ、特に注意をはらわないから。

問五——線③「見事な「画一さ」にいつもおどろいています」とありますが、筆者はどういうことにおどろいているのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア だれもがみな、スマホという高度な道具を使いこなしていること。

イ だれもがみな、スマホをあつかうという同じ動きをしていること。

ウ だれもがみな、高価なスマホを手にすることができていること。

エ だれもがみな、同じような情報をスマホを使って得ていること。

問六——線④「周囲の人への関心をいっせいに遮断して、スマホバリアーで守られた世界へ人々が没入していく姿」とありますが、この姿が具体的に書かれている部分を「ゝ姿」に続くように、④段落⑦段落から探し、初めと終わりの五字ずつをぬき出して書きなさい。

問七——線⑥「この二つ」が指す内容を二十字以内で本文中からぬき出して書きなさい。

問八 ―線⑦「私たちの心や関心は『今、ここ』にはないのです」とありますが、筆者はなぜそう感じたのですか、その理由を説明した次の文の□1□□3にあてはまる最も適当なことを、本文中からそれぞれ指定された字数でぬき出して書きなさい。

スマホを使っているとき、実際には通勤通学ラッシュの□1(八字)にいるにもかかわらず、人々は□2(八字)とつながることで、心や関心は□3(十字)の世界にとんでいつているから。

問九 ―線⑧「密着」は、二つの漢字が組み合わせられてできた熟語です。これと同じ組み立て(構成)のものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。
ア 絵画 イ 激増 ウ 頭痛 エ 登山 オ 利害

問十 ―線⑨「□□がない」が「際限がない」という意味になるように、□にあてはまることを書きなさい。ただし、□はひらがな一字とします。

問十一 ―線⑩「常識的知識をいったんカッコに入れ」とはどういうことですか、その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ある日常的光景を「あたりまえ」だと思ふことは、常識にもとづいた考え方であるということをはっきりと自覚すること。

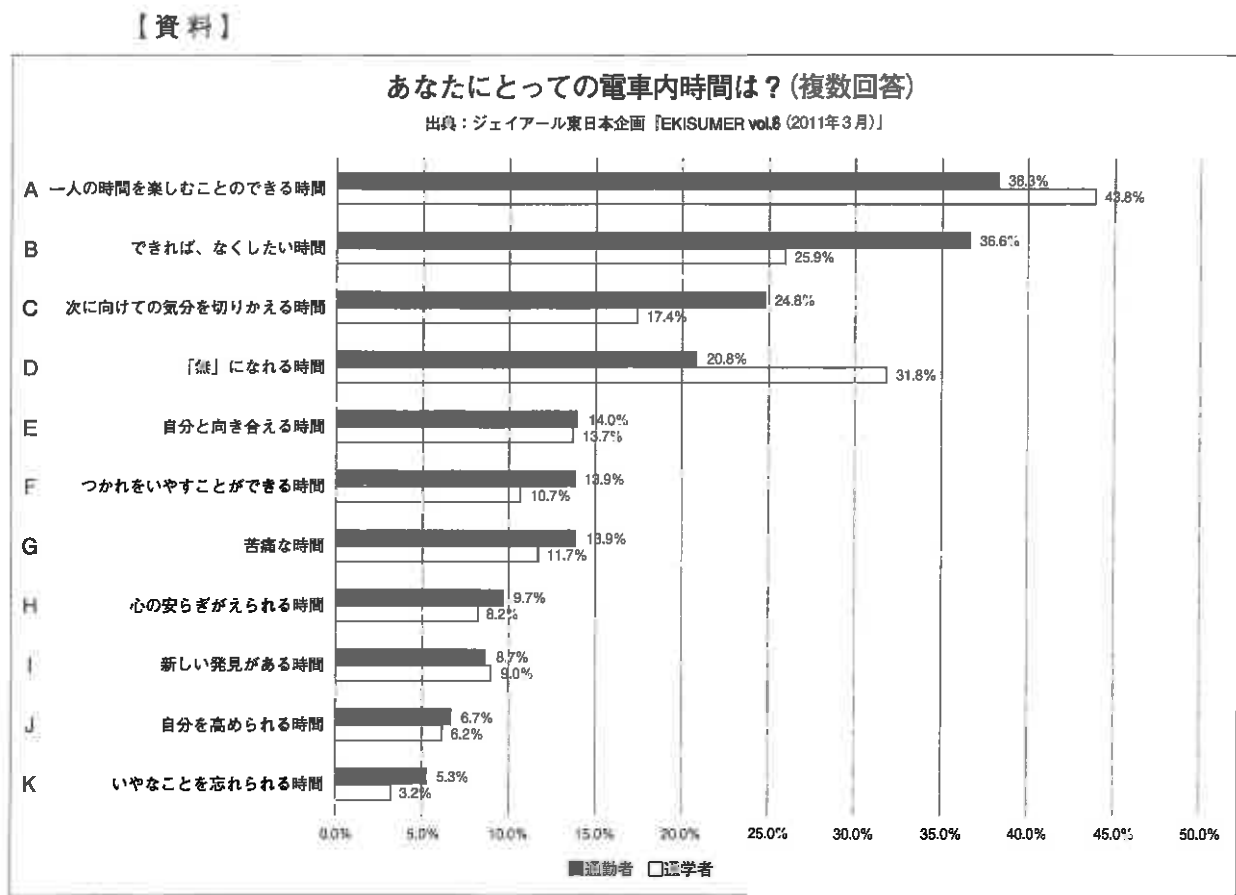
イ 日常的光景を「あたりまえ」のものとしてとらえるために、私たちがどのようにふるまうのがよいかを見つめなおすこと。

ウ 私たちが何気なく見ている日常的光景を「あたりまえ」のこととして理解するのではなく、ちよつと立ち止まって考えること。

エ 日常的光景を無意識にすべて「あたりまえ」とひとくくりせず、意識すべきものとそうでないものとを区別してとらえること。

問十二 ―線⑪「日常生活世界を生きて在る私たちの姿を社会的に読み解く」とありますが、筆者は、電車の中の人々について、今どのようなことができていないことが問題だと思っているのですか。また、筆者は、私たちがどのように生きるべきだと考えていますか。まとめて書きなさい。

問十三 次は、本文を読んだ赤坂さん・筑紫さん・桜坂さんが、【資料】を見て話をして



赤坂さん 電車の中で過ごす時間を人々がどのようにとらえているかを表している【資料】を見てみると、いろいろなことがわかるわ。ところで、すべての回答率を足すと、どうして一〇〇%より多くなるんだろう？

筑紫さん それはね、このアンケートが□1を認めているからよ。

桜坂さん なるほどね。通勤者と通学者の両方で最も多かった答えは□2だね。

筑紫さん 「自分を高められる時間」という答えもあるから、電車の中で過ごす時間を有効に使うとしている人もいることがわかるね。

赤坂さん これらの結果を見ると、人々にとって電車の中は□3と過ごす時間だということ意識が低いということが見てとれるわ。

筑紫さん 今の時代、電車内でどう過ごすかは人それぞれなんだね。あなたならどう過ごす？

あなた

4

(1) 〓線①「人々が」はどのことばにかかりますか。次の――線ア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

人々がどのようにとらえているかを表している【資料】を見てみると、いろいろなことがわかるわ。

(2) □1に入ることを【資料】の中からぬき出して書きなさい。

(3) □2には【資料】の中のA～Kのどれが入りますが、記号で答えなさい。

(4) □3に入る最も適当なことを④段落⑤段落から五字でぬき出して書きなさい。

(5) 〓線②「人それぞれ」とありますが、この意味を持つ四字熟語として最も適当なものを次のア～カから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 一石二鳥
イ 一日千秋
ウ 三々五々
エ 十人十色
オ 千差万別
カ 二東三文

(6) あなたなら、電車の中でどのように過ごしたらよいと考えますか。□4に入るあなたの意見を、解答欄の「私なら」に続けて三十字以上四十字以内の一文で書きなさい。

二

次の各問いに答えなさい。

問一 次の1～3の□にあてはまることわざとして最も適当なものを次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 高価なバイオリンでも、それをひきなす技術がなければ、□だ。
- 2 探していたものがこんな身近にあるとは思わなかったよ。□だね。
- 3 こんな場所にひっこすなんて初めはいやだったけれど、今では気に入っているから、□だよ。

ア 住めば都 イ 時は金なり ウ ぬかにくぎ エ ねこに小判 オ 花より団子 カ 灯台もと暗し

問二 次の1～3の――部の敬語の使い方が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

- 1 先生が私に宿題をできなさいとおっしゃいました。
- 2 このカバンは父に買っていただいたものです。
- 3 母は一日に二回、金魚にえさをあげる。

問三 次の1～3の――部は季語（季節を表すことば）です。それぞれの季語を表していますか、その季語を漢字一字で書きなさい。

- 1 をりととりて はらりとおもき すすきかな 飯田蛇笏
- 2 蛭獲て 少年の指 みどりなり 山口誓子
- 3 流れ行く 大根の葉の 早さかな 高浜虚子

40